

笑顔あふれる学び舎が戻りました

校長 岩澤 尚彦

「いちについて、よーい、どん!」「ミニトマトの実がなったよ」、「10リットルに10をかけたら100リットルです」など、校庭や花壇、教室などのあちらこちらで、学ぶ子どもたちの声が響きます。学校だより5月号の表題にある「笑顔あふれる学び舎」が戻ってきました。

分散登校、午前授業を経て7月に入り、通常登校となります。地域の皆様、保護者の皆様には、6月は、登下校の見守りを重点的に行っていただき、児童が安全に登下校することができました。心より感謝申し上げます。

新学期が遅くなり、少なからず不安を抱えている子どもたちもいると思います。担任、児童支援専任や子どもに接する様々な教職員とのコミュニケーションにより、子どもの様子をチェックしております。また、全市一斉で行われております「心とからだの健康アンケート」を実施し、子ども一人ひとりの気持ちをキャッチして、不安を取り除き、安心して学校生活を送れるようにしています。

休業期間で、家庭で学習を補っていただいたことにより、登校再開後も極度な学習の遅れもなく、子どもたちがペースをつかみながら取り組めることができております。保護者の皆様には、本当に感謝申し上げます。

現在、子どもたちは家庭学習で行った課題を踏まえて、学習を進めています。また、理科や社会、生活科などの教科では、少し遅れながらも、植物を育て、友達と発見し合ったり、解決し合ったりして、植物の成長を感じとる学習を学年ごとに進めています。

2年生は、自分で選んだ野菜を育てています。先日、高橋園芸さんに植え方や育て方を教えていただき、苗を用意していただきました。1年生で使用した鉢を再利用し、牛乳パックで囲い、土をかさ増して、苗を植えました。難しい活動でしたが、様々な気づきや思いがたくさん起きてきたようです。



はじめは、あまりうまくできなかったけど、なえうえをやっているうちに、じょうずにできるようになり、じぶんがせいちょうしたんだなとおもいました。

自分でそだてたおくらを、かそくみんなでたべたいから、がんばってそだてます。

なえをうえたとき、くきがざらざらで、キュウリってこんなくきだったんだなと思いました。

なえのうえ方をしらべているときに、むずかしそうだなと思ったけれどたのしかったし、うまくできてうれしかった。たかはし園がいさん、「ありがとう」と思っています。

5年生は、念願の田植えを行いました。登校ができず、自分たちでは植えられないと思っていた子どももいたようですが、登校して間もなく田植えを行いました。足がとられるほど深くまでつかり、苗を植えました。体験に勝るものはなしと感ぜられる感想もありました。

そんなに深くまで、いねを入れるとは思わなかったです。米は、どうして水たまりみたいにたくさん水を入れても育つのかを調べたいです。むかしは機械がなかったから、すごくたいへんだなと思いました。

一番最初に植えた時に、ぐっとさすのがうまくできなかったけど、2回目に教えてもらったからうまくさせました。田植えをやるのはたいへんだったし、植えるのにコツがいるけど、農家の人は、暑い中ががんばっているのがわかりました。



足が思った以上に深くはまりました。ぬくときも大人の人に助けってもらわなくてはぬけなかったかもしれないです。農家の人たちのたいへんさとともに、機械を使わなくてはならないということもよくわかりました。とても楽しかったです。

新しい生活様式を踏まえつつ、それでも、今、子どもたちにとって必要な学びとは何かを大切に、本校の教育目標に向かっていきます。子どもたちの学習ペースを少しずつ戻しつつ、共に学び合う学習や体験を取り入れた学習を重視して行ってまいります。